簡易街並み修景ツール

正会員　○土信田浩之 *
正会員　　野原　卓 **

*　東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程
**　東京大学先端科学技術研究センター助教・工修

Landscaping Tool

○ DOSHIDA hiroyuki*
※ NOHARA taku**

*　Graduate Student, Graduate School of Engineering,Univ.of Tokyo
**　Assistant Professor,Research Center for Advanced Science and Technology, Univ.of Tokyo,M.Eng

0. 概要

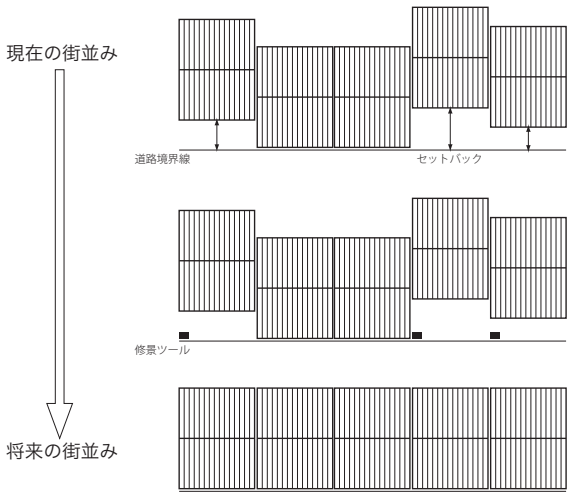
本計画は、岐阜県高山市越中街道地区における街並み調査提案[1)]に含まれる街並み修景提案の一部である.

建替えによる街並み回復を目指すのではなく、短中期的なスパンで簡単にできることを行うことにより、街並みに対する気運と共に、伝統的な街並みに回復につなげる、簡易的修景ツール（以下修景ツール）の提案である.

1. 高山市における歴史的な街並み

高山市は、城下町の都市構造や、近世から近代にかけての町家建築や土蔵など、歴史的建造物が構成する街並みが色濃く残り、上町、下町の両町人地は重要伝統的建造物群保存地区（以下伝建地区）に指定されている.

昭和 54 年に伝建地区に指定された古い商人の街並みが残る上町地区に対し、平成 16 年に指定された下町地区は、明治初期の伝統的町家建築も存在する一方、明治後期から現代までの建築が共存する多様な景観の現れる地区である.



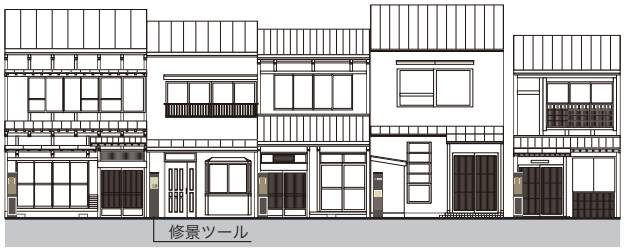
2. 計画対象地

本計画地である大新町越中街道地区は、下町伝建地区内の北側に位置し、富山等から物資を運ぶ街道であった「越中街道」を中心とした、南北約 300m にわたる地区である. 同街道は昭和 29 年に都市計画道路に都市計画決定されており（平成 16 年に廃止）、その後に建替えた沿道建物の中にはセットバックしているものも含まれるため、必ずしも壁面線や意匠が連続した街並みが形成されているわけではない. また、現代の生活とともに生活の中心が街道側から建物の奥の方に移行したため街道の賑わいが薄れるといった問題を抱えている.

3. 設計主旨

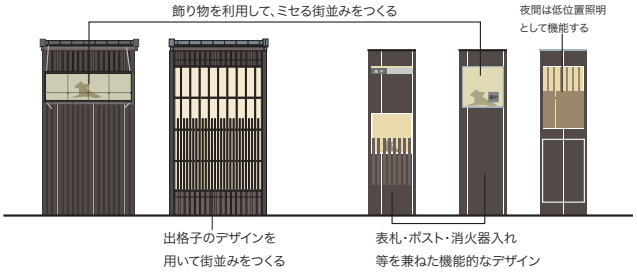
当計画は、越中街道街並み調査の結果、わかったコンテクストを背景として、「建物の建替えを行わずに、誰もがまちなみづくりに参加できる」ことをテーマとする.

越中街道地区は、江戸時代から現代まで敷地割りが継承されており、敷地間口がほぼ一定である. その上で、伝統的な町家から続く道路境界の一部を街並み創出の場と位置づけ、現在の街並みからでも、建物の建替えを行わずに、伝統的な街並みを回復していこうとするものである.



□ 南側「半間」の修景

街並みをそろえる手段として、建替えやファサードの修景等は、現代生活との調整などハードルが高い. 街並み調査により、高山の町家は南側にドジと玄関をもち、現代においても南側に玄関をもつ家が多いことがわかっている[2)]. そのため、より多くの人が参加しやすいよう、各家の南側半間を街並み創出の部分と位置づける.



□伝統町家から壁面線を連続

敷地境界線の位置にツールを設置する. 敷地間口がほぼ一定であるため同じリズムでツールが並び、失われていた敷地間口のリズムと壁面線を現代によみがえらせ、新しい街並み形成手法が成立する.

□コミュニケーションを誘発する

セットバックして建物が建てられるようになってから道路と建物の間に距離がうまれ、かつてのように生活が通りにしみ出すことは少なくなった. ツールの中にコミュニケーションを誘発するような仕掛けを施すことで賑わいある通りの創出を目指す.

□前面空間のエレメントを統一

建物正面には生活用具や植木鉢などがあふれ出すことが多く、越中街道地区も例外ではない. それは時として街並みを損なう原因になることがある. そこで生活用具などを一箇所にまとめ、統一したデザインで修景することで、まとまりある街並みの創出を目指す.

所在地 : 岐阜県高山市大新町 越中街道地区（伝建地区内）
主な用途 : まちなみ修景、街灯、生活用具入
大きさ : 300 × 200 × 1500(mm)、150 × 150 × 1500(mm)
対象戸数 : 89 棟
キーワード : まちづくり・修景・街並み・伝建地区

Location : Ecchu-Street Area , Ojinmachi , Takayama-shi , Gifu
Main Use : Landscaping , Light , Storage box
Size : 300 × 200 × 1500(mm)、150 × 150 × 1500(mm)
Number of houses : 89
Keywords : Town Planning , Landscaping , Streetscape , Area of Important Traditional Buildings

4. 検証を重ねてつくる

伝統的な街並みにどのような影響を与えるか、入れたい機能は入るかなど、街並み実験やモックアップを作成することにより検証を行った.

□ 街並み実験による大きさ検証

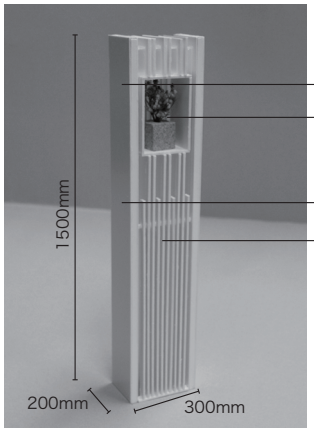
実際の街並みにおいて、修景ツール、大(900 × 1800)中(300 × 1500)小(300 × 300)の 3 種類のモックアップを作成し街並みに与える大きさ、使いやすさの検証を行った. その結果、大きさ、使いやすさともに「中」のものが適当であり、大きさを 300 × 200 × 1500（mm）とした.

□ モックアップによる機能検証

大きさを上記のように設定すると、現在、道路にむき出しになっている消火器を含め、表札、街灯、ポストなどの機能が入れられることがわかった. しかし、多くの人が街並みづくりに参加できるようにするためには、それらの機能は必ずしも必要ではなく、さらに各家のセットバック状況を加味すると、より小さい修景ツールが必要となってくる. そこで、機能を表札、街灯など最小限にした 150mm のツールも提案する.

街並み実験の様子

モックアップによる検証



修景ツールデザイン案の一例

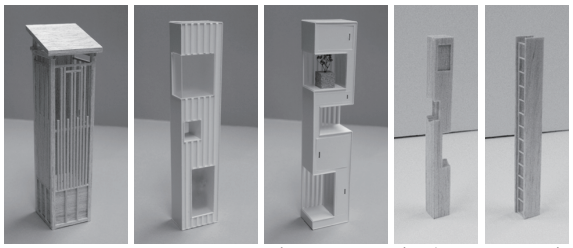
表札

ディスプレイ
飾り物を利用して、ミセる街並みをつくる

ポスト

街灯
夜間は低位置照明として機能する

吹寄せ連子格子をモチーフとして、格子を立体的にデザインした案. 縦のラインが強調され、新しいデザインの中にも高山らしさを演出した.



左 3 つ 300mm 案、右 2 つ 150mm 案

5. デザインコンセプト

デザインにおいても「多くの人に参加してもらう」「伝統的な街並み」を意識し、単純な形で、わかりやすさを重視したデザインとする. その中で高山らしさを感じることができるデザインを目指す.

□ 格子

高山の町家には、様々な格子のデザインを見ることができる. そうした格子のデザインを踏襲し修景ツールに活かす.

□ ディスプレイ

街並みを修景するだけでなく、賑わいを生むことも大事な役割である. 高山の「飾りもの」文化を継承し、街道に彩りと人の気配を発生させる.

6. 街並み再生のプロセスを計画する

越中街道地区は、伝建地区にふさわしい歴史的な空間構造を受け継いだ街並みを再生する必要がある. しかし、現実的には都市のシステムもかつてとは異なるだけでなく、ゆとりある住宅地の魅力や利便性も兼ね備えており、セットバックした街並み全体が、急激にかつてのような姿に回復するのは難しい.

そこで、徐々に空間構造（壁面線の連続性と街並みのリズム）を回復するように育成計画を組み立てる.

6-1.「修景ツール」から「伝統的街並み」まで

修景ツールによって、街の空気や壁面線、街並みの連続性についての意識を高めていく. 街並みの意識が高まりはじめたところで、塀や下屋などを用いて壁面線を再構築し、街並みを整える. そして、建替え時期を迎えたところで伝建地区の保存計画を踏襲し、魅力ある街並みを回復していく.

STEP1 短期的段階
まずはできることから始める. みんなで街並みに参加していく意識が大切である

STEP2 中期的段階
越中街道のもつ伝統的な都市構造と風格を再生するための工夫をおこなう

STEP3 長期的段階
伝統的な街並みを回復するために、保存計画に沿った建替えをおこなう

STEP1 短期的段階

STEP2 中期的段階

STEP3 長期的段階

7. まとめ

当計画は単なる提案に留まらず、実際の街並みでのモックアップ実験や地元住民へのヒアリングなどを経て計画してきたものであり、伝統的な街並みの回復をおこなうにあたり、新しい提案の一つと位置づけることができる.

1) 高山市越中街道地区を 1 年半にわたり調査を行い、その成果と修景提案を「街並み調査提案」としてまとめた
2) 大道・野原「高山市大新町越中街道地区における新旧共存型歴史的市街地の街並み形成に関する研究」2008 年度日本建築学会（中国）学術講演会